

宝塚市の財務書類を みてみよう

平成21(2009)年度

市の財産や借金などの全体像を把握するために、民間企業の会計手法を取り入れた貸借対照表(バランスシート)などの財務書類を作成しました。このリーフレットを通じて、市民の皆さんに、市の財産や行政サービスにかかるコストなどの状況をわかりやすくお伝えします。

平成21(2009)年度の取り組みについて

平成21(2009)年度は、「安全・安心のまちづくり」をすすめるためにJR宝塚駅の周辺整備や、小学校や中学校などの耐震化事業を実施したほか、国の施策に基づいて定額給付金の給付等の事業を行いました。具体的には、次のとおりです。

安全・安心のまちづくり

JR宝塚駅周辺の整備



10億円

学校園施設の耐震化



9億円

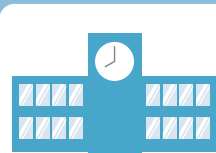
がん等の検診



3億円

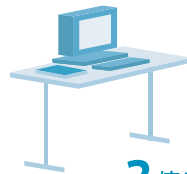
未来を築く子どもたちの育成

学校園の運営



7億円

教育用
コンピュータの購入



3億円

妊婦健康
診査費の助成



1億円

活力あるまちづくり

定額給付金の給付



35億円

雇用の創出



1億円

環境にやさしく、持続可能なまちづくり

地球温暖化防止

太陽光発電設備の設置など



1億円

貸借対照表 (バランスシート)

平成22(2010)年3月31日現在

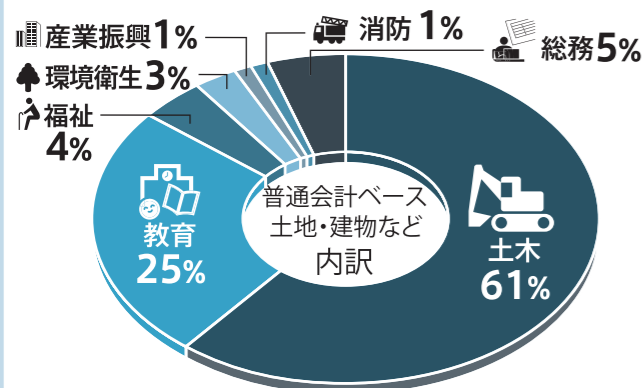
貸借対照表(バランスシート)は、現在、市がどれだけ財産を持ち、いくら借金をかかえているのか、市の財政状態を全体像でとらえ、市の資産(土地や建物など)や、将来返済しなければならない負債(借金など)がどれくらいあるかを一覧にしたものです。左側(資金の使い道)は資産を、右側(資金の調達)は負債と純資産を表し、左右同額となります。

資金の使い道		
区分	普通会計ベース ^{※1}	連結ベース ^{※2}
1. 市が保有する土地・建物など	3,677億円	5,137億円
2. 出資金・貸付金・基金 ^{※3} など	273億円	147億円
3. 現金預金	69億円	140億円
4. 未収金など	11億円	43億円
資産^{※4}合計	4,030億円	5,467億円

資金の調達		
区分	普通会計ベース	連結ベース
1. 地方債など(借金)	811億円	1,476億円
2. 退職金の支払予定額	144億円	175億円
3. その他	91億円	89億円
負債^{※5}合計	1,046億円	1,740億円
純資産^{※6}合計	2,984億円	3,727億円
負債・純資産合計	4,030億円	5,467億円

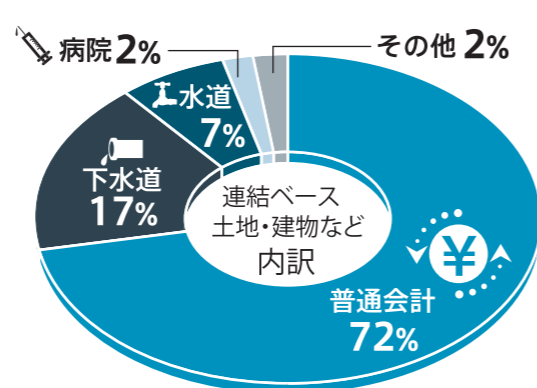
Q 市が保有する土地や建物はどのような目的で使われていますか?

普通会計ベース
土地・建物など 3,677億円



Q 連結ベースの土地や建物の内訳はどのようになっていますか?

連結ベース
土地・建物など 5,137億円



用語解説

- ※1 普通会計ベース / 一般会計+特別会計のうち公共用地先行取得事業会計
- ※2 連結ベース / 普通会計ベース+特別会計+企業会計(水道・下水・病院)+公社+第三セクター+一部事務組合
- ※3 基金 / すぐに使う予定のない預金など ※4 資産 / 市民の財産 ※5 負債 / 将来の世代が負担する借金など
- ※6 純資産 / 現在までの世代が負担した市税や国・県からの補助金などで民間では「資本」にあたるもの

行政コスト計算書

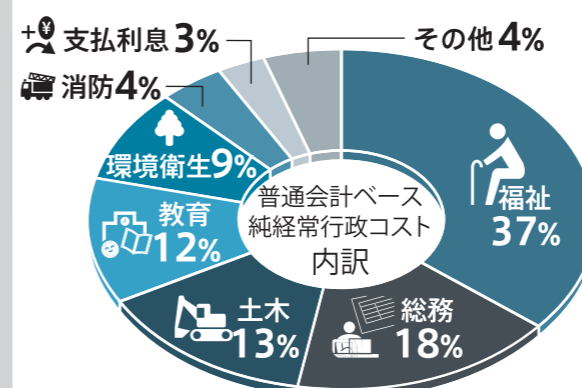
平成21(2009)年4月1日～平成22(2010)年3月31日

行政コスト計算書は、福祉や教育などの行政サービスを行うために必要なコスト(費用)を計算した一覧表です。資産の形成にはつながらない人件費や社会保障費などに使った1年間の費用を集計した、民間企業の「損益計算書」にあたるものです。

区分	普通会計ベース	連結ベース
1. 人件費などのコスト	155億円	236億円
2. 消耗品や委託料、建物の維持管理などのコスト	162億円	275億円
3. 社会保障費などのコスト	268億円	689億円
4. 支払利息などのコスト	33億円	70億円
経常行政コスト ①	618億円	1,270億円
経常収益(使用料・手数料など) ②	34億円	491億円
純経常行政コスト ①-②	584億円	779億円

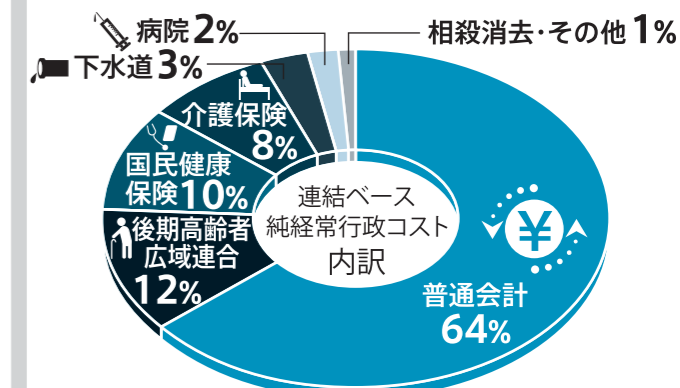
Q どのようなサービスに行政コストがかかっていますか?

普通会計ベース
純経常行政コスト 584億円



Q 連結ベースの行政コストの内訳はどのようになっていますか?

連結ベース
純経常行政コスト 779億円



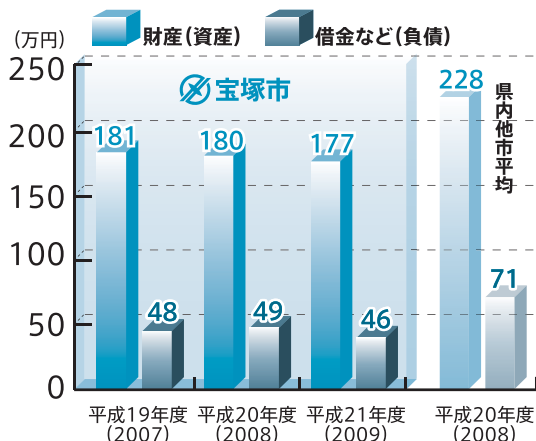
【財務書類の作成方法等】

- 財務書類の作成基礎 / 貸借対照表、行政コスト計算書は、総務省方式改訂モデルに則って作成しています。
- 作成基礎データ / 原則として、昭和44(1969)年度以降の決算統計の数値を基礎として作成しています。一部、対象年度の歳入歳出決算書等を用いて数値を算出しています。

指標でみてみよう

(普通会計ベース)

市民一人当たりの市の財産・借金など



Q1 将来世代に残る市の財産はどのくらいですか?

A1 将来世代に残る市の財産は、市民一人当たり177万円です。

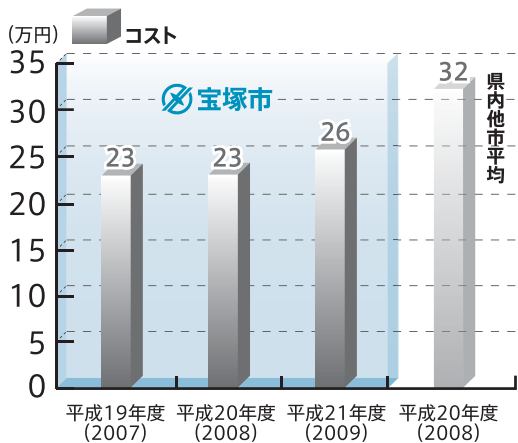
市民一人当たりの財産は県内他市の平均と比べると小さくなっています。宝塚市は比較的、狭いエリアに人口が集中していることなどにより、効率的に道路などの整備を行うことができています。

Q2 市民一人当たりの将来の負担はどのくらいですか?

A2 将来世代の負担である市の借金などは、市民一人当たり46万円です。

阪神・淡路大震災の復旧・復興のために借りた借金の返済が進んでおり、市民一人当たりの借金などは減少しています。市民一人当たりの借金などの金額は、県内他市の平均と比べると小さくなっています。

市民一人当たりの純経常行政コスト

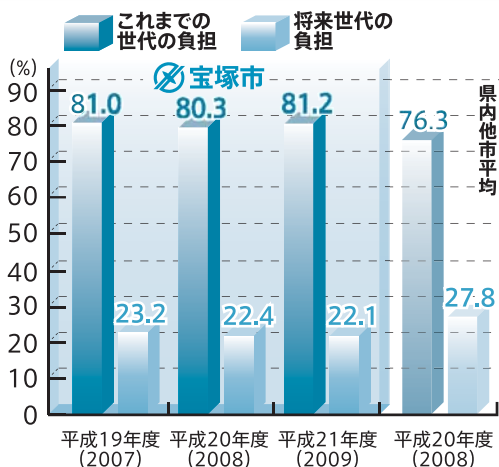


Q3 行政サービスにかかるコストはどのくらいですか?

A3 行政サービスの提供にかかるコストは、市民一人当たり26万円です。

県内他市の平均と比べると住民一人当たりの行政サービスのコストは、市民一人当たり約9万円少なくなっています【平成20(2008)年度】。これは、社会保障給付や補助金などのコストが他市よりも比較的少ないことによるものです。

世代間の負担のバランス



Q4 将来世代と現世代の負担のバランスはどうなっていますか?

A4 市の財産は、これまでの世代の負担で約8割、将来世代の負担で約2割がまかなわれています。

県内他市平均の将来世代の負担が約3割であるのに対し、宝塚市は約2割であり、将来世代に負担を先送りせず、財産の整備を進めてきたといえます。

※A1～4は、全て平成21(2009)年度の情報です。

【注1】 県内他市平均の数値は、兵庫県内の平成20(2008)年度の普通会計ベースの財務書類の数値が公表されている27市を対象としています。

【注2】 住民一人当たりの金額は各年度3月末の住民基本台帳人口を基に算定しています。(右図参照)

宝塚市 住民基本台帳人口(3月末)

県内他市平均

平成19(2007)年度	平成20(2008)年度	平成21(2009)年度	平成20(2008)年度
225,048人	226,315人	227,826人	185,554人

もっと知りたい方はこちらインターネットHP

宝塚市の財政状況

検索

連絡先 宝塚市 企画経営部行財政改革室財政課

〒665-8665 兵庫県宝塚市東洋町1番1号

Tel **0797-77-2022** (直通) Fax **0797-72-1419**

<http://www.city.takarazuka.hyogo.jp/>